

THE SHINGASHI BASIN NEWS

1998(平成10)年 8月10日 発行/新河岸川流域川づくり連絡会 編集事務局/朝霞市朝霞5-3-4-2-201 TEL.& FAX/048-474-3504



切り絵イラスト/毛利博範

●川越五河岸の繁栄 斎藤貞夫

●流域人インタビュー 井出彰

●流域の街並を行く 廣野淳

●他地域活動紹介-T R ネット

●市民活動等の助成制度一覧表

●「彩の国さいたま環境推進協議会」

●「市民がつくる志木市の環境プラン」

●流域情報

●流域の生き物たち

●川づくり情報

川越五河岸の繁栄 上新河岸

斎藤 貞夫

東武東上線新河岸駅から東へ10程歩く
と、新河岸川に架かる旭橋に出る。この
一帯は昔も今も新河岸と呼ばれる地区。
付近には新興住宅が建ち並び、橋を通る
人達も、この小さな川が三百年に亘り重
要な役割を果たしたと知る者が少なくな
ってきた。旭橋の袂の橋の下に石碑が建
っている。川越市文化財となっている新
河岸川河岸跡である。上部に沿革と、下
部に舟歌が3曲彫ってある。上新河岸に
は、同地区の開祖といわれる沢田基右衛
門供養の石地蔵があり、ここに寛文二年
(1663)四月二十九日と彫られている
ことから昭和50年4月29日、保存会
を作り、除幕式をした。上新河岸と下新
河岸というのは、川の流れが上から下へ
という様な事から名付けられた。船積問
屋には、それぞれ荷扱いの専門があり、
「麻金」は荒物に雜貨類、「伊勢安」

「船儀」は材木・肥料、「河内屋」肥料
・雑穀、「炭屋」は酒・醤油専門に業客
という具合。また「炭屋」が箱崎町(東
京都中央区)に「川越屋」、「麻金」が
伊勢町に「麻金出張所」を所有していた。
「炭屋」は初め「藤屋」と名乗っていた

事が、今残る
印籠でも分か
る。現在の当
主は房雄氏で
14代目である。
7代目京
兵衛の時、京
都に本店を持
つ通油町(現
日本橋大伝馬
町)の金持問
屋「炭屋平兵
衛」の店に出



入りし暇隙わけをし「炭屋」を屋号とした。
京都と江戸にあった炭屋平兵衛は、今日
の葛浅商事に発展している。

現在同家には、84通40冊の古文書
が川越市指定の文化財となっている。また
同家から斎藤平蔵という国学者が出て
いる。蔵は寺尾勝福寺で明治12年11
月9日72歳で没している。その他、上
新河岸に船客「伊勢吉」があり、乗客相
手の前泊や船中での飲み食い、酒、弁当、
菓子、団子など売っていた。

明治中期、同店で出す火鉢は1銭5厘、
布団は3銭、枕は1銭というのが相場だ
った。

乗客の船賃は慶応年間2朱。明治中
頃迄弁当なしで12銭位であった。「炭
屋」は早船を持って毎日乗客を運んで
いた。この「川越夜船」で舟歌が歌われた。

九十九曲りあだではこそぬ
遠い舟路の三十里

流域人インタビュー

街の状態を一番よく表しているのが川 井出彰

—最初に、「里川」という言葉なんです。

本当は野川でもよかったんですが、野川だと園分寺を流れる川の固有名詞になってしまうので。街の中を流れている「身近な川」という意味で使ったんです。

里川というのは田山花袋が「田舎教師」の中で何度か使っているんですが、実はそれ以前から使われていたんです。本には里山という言葉は辞書にないって書いてありますが、今年発行の「明解」には載っていますね。30年たってやっと辞書に入った。里川も、使われなくなってまた使われて、そんなふうになっていけばいいなと。

—川を歩くようになったきっかけは？

病気になる前は川には縁がなかったんです。

川を歩いていたらお城のむこうに川があって、あれは新河岸川だったんですね。川は方丈記の昔から人生に例えられますが、ちょうど病み上がりだったので、昔の川を思い出したんです。そのあと、不老川を3日4日かけて歩きました。途中からカミソリ土手になり、真っ黒で見えない。街の状態を川が一番よく表している。都市が病んでいるんだなあと思っ、全部歩いて都市の病み具合を見てみようという気持ちになったんです。

森や山と海をつなぐのが川で、人間といえば血管のようなもの。そこが汚れていたら何の意味もなくなってしまいます。欧米では19世紀に産業革命ですっかり汚れてどうにもならなくなった。立ち直らせたのは、住民運動だったということを知ったんです。政府の治水が終わって住民が管理するようになって、川がよみがえったんです。

日本では、川っていうのは江戸時代が一番大事にされていて、江戸は川で成り立っていたんですね。日本橋川など、東

京では多摩川以外は全部人工の川なんです。湿地帯に川を通して町並みができた。ところが、必要だからと一生懸命作った川なのに、昭和になってみんな埋めてしまったのはどうということなんだろうと思えますね。

—川のことからはどうなるんでしょう。

子供が小さい頃、不老川の支流の林川にザリガニをとりに行きましたが、今は汚くてだめです。でも、水草を300メートル植えれば、自浄力が出てくるのではないのでしょうか。藤沢あたりの畑を2つか3つ買って買取るのは、そんなに大変じゃないと思うんです。そこに草を植える。みんなの基金で買取るより安くできるのではないのでしょうか。

霞川に1時間いたらカワセミが来たりして、草土手のところには虫が多いから。やっぱり草土手はいいですね。草土手にすると川は動くから。



処理水の川は、見た目はきれいでも、生き物のこととか長い目でみたらよくないんじゃないでしょうか。処理水を流している目黒川や渋谷川なんかみると、汚れた血管を繋ぎ合っているような気がしますね。

でも、そんなに失望はしていませんよ。これから人口は減っていくだろうし、コンクリートで固めなければ、そのうち護岸が崩れて自然にいい川になっていくと思っます。

—この本に出てくるのは武蔵野台地を流れる川、つまり新河岸川とその周辺の川ですね。これからはどこを。

最近、武蔵野線が好きになって、よく乗ります。それで今年は、武蔵野線が流れる川を一本ずつ歩いてみようかと思っっています。まだ吉川あたりまでしか行っていませんが。武蔵野線は高い所を通るので、水田などがよく見えますが、ぐるっと円く輪を描いているんですね。だから、その円にそってネットワークを作ったら都市というものが見えようと思っっています。

『里川を歩く』

流域の街道を行く

新河岸川の歴史と文化

あらまし(その3)

廣野 淳

本川流域および支流沿いの合地には多くの社寺院や堂宇を目にする事ができ、そこには様々な信仰形態が散在している。それが神であれ仏であれ、水と宗教とが深く結びついた造り物や偶像物も少なくないようである。

それらは東洋思想に基づく共通点を有していることでもある。つまり、原始・古代社会における自然崇拝や宇宙観から生じる森羅万象、胎前産後の思想に起因しているからである。

その起源は言うまでもなく、縄文時代にすでに発生し、弥生時代の稲作農耕と日月天地の創造、それに巫女存在である。そして「縁の境」の新羅・新幹、豪族(大王・小王)の墓(方形肩持墓又は円形肩持墓)を造営し、祭祀が行なわれた。次の古墳時代では、全国的に墳墓が造営され、大陸の影響を強く受ける副葬品や玄室が施される。さらに後期にかけてますます大陸文化が導入されるようになり、西暦538(敏達7)年に仏教と共に多くの僧侶や学者、技術者らが渡来する。これによって畿内地方を中心に多くの寺院が建立され、仏教の普及とともに密教・儒教・道教・胎前産後なども普及した。

この武蔵国に寺院(のちの園分寺)あるいは僧庵が置かれたのは641(舒明天智)年の頃と考えられている。ちょうどこの頃になると古墳築造が禁じられ、これに代って横穴墳、地下式墳墓が出現するが、これらの墓は、川沿いの崖か、縁辺部の合地上に築かれている例が多い。近くには限って古社寺院が建立された形跡が認められる。

この新河岸川流域や支流沿いにもこのような事例が見られるので、次回は本川流域の具体例について探訪してみたい。



他流域活動事例紹介

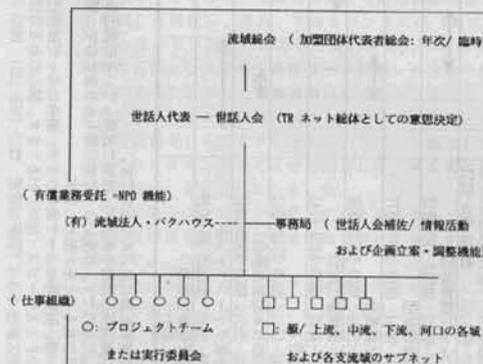
第3回新河岸川流域川づくり連絡会(6/27)における鶴見川流域ネットワーク世話人、草野重芳さんのお話から

鶴見川流域ネットワーク

【概要】

鶴見川流域ネットワーク(略称:TRネット)は、鶴見川の水系に沿って自然や都市を学び直し、バクの姿の流域地図を共有しながら流域規模の市民連携をすすめ、安全・安らぎ・自然環境重視の川づくり・まちづくりを通して、持続可能な未来を開く新しい流域文化を育む様々な流域活動を進めている市民団体のネットワーク組織です。1991年の春、総合治水の行政イベントに際して流域市民手づくりの川祭りを行ったのを皮切りに当初13団体でスタートし、以来流域各地での市民活動を重ねつつ、1998年現在の参加数は53団体となっています。

【運営方法】



【事務局】 御流流域法人・バクハウス 担当/平山、野村、編田 ☎& 045-546-4337

【ポイント】

- 河川法の改正を前向きにとらえる
新「河川法」は、21世紀市民社会の川・地域づくりのルールとして前向きに受け止めてTRネットの活動にとって、今後積極的に活用していくことが大切
- 流域地図(流域の魅力と問題)を共有する
多様な価値観を持った団体の集まりでは、流域情報、活動理念やテーマの共有化が大切
- 無視できないコミュニティになる
川づくりやまちづくりに際して、テーマコミュニティとしての力をつけたい
- ネットワーク(親の縁・縁)からパートナーシップ(産別と縁)へ
単位団体の個性と持ち場を尊重しつつ、流域活動で連携し、官・民の合意形成型で「鶴見川流域人」の流域連携活動を目指す
- 流域法人の設立
NPO法案の成立を待たずに有限会社として流域法人・バクハウスを設立し、有償業務の受皿をつくった
- フィールド、データ、「川歩き」の重視 — 加盟団体の共通する活動様式

※TRネットに関する資料を入手したい方は、新河岸川流域川づくり連絡会/朝霞事務局までご一報下さい

○事務局は参加団体所属の個人

○入会には既入会会員の2団体以上の推薦が必要

○多摩川及び相模川の流域ネットワークとも交流

○年間予算は約150～200万円

○事業によって、行政の支援・参加を得ている。

サブネット

これまでのネットワークとしての取組み課題から、地域毎に河川管理者や自治体・区とのきめこまかな調整が必要になってきたため、本川の上・中・下各流域と支川別のサブネットづくりを推進している。

「市民がつくる志木市の環境プラン」

エコシティ志木では、98年3月「市民がつくる志木市の環境プラン」をつくった。市民自身が知恵を出し合った等身大のプランとして注目を集めている。

プランは「水と緑のネットワークプラン」「ごみダイエツトプラン」「福祉のまちプラン」「エコ・コミュニティひろばプラン」「おちば公社プラン」の6つの具体的な行動計画からなり、2007年までの10年間で達成することを目標としている。



例えば「ごみダイエツトプラン」では、96年の数値と比べて10年間で75%の可燃ごみを減らす提案をしている。また「おちば公社プラン」では、市民と行政が共同で運営する非営利事業体を作り、落ち葉などの未利用有機物を収集して堆肥化して利用することを、事例を紹介しながら提案している。

「水と緑のネットワークプラン」では、志木市内を流れる3本の川（荒川・新河岸川・柳瀬川）を生態系を結ぶ廊と位置付けて、川を中心に自然の保全・創造を呼びかけている。今年も自然とふれあえ違える川の復活をテーマにさまざまな具体的な取り組みをスタートさせた。

今回で6回目となる川歩きでは、5月に新河岸川流域に残されている旧河川を中心に観察した。旧河川に残されている自然を活用しながら残せないかという方法を探っている。また、管理者である埼玉県新河岸川総合治水事務所が進めている生態系のために水際の草を刈り残す草の刈り方に協力し、あらゆる機会を利用して市民への広報に努めている。刈り残した部分にオオバクサが異常繁殖して問題になっているが、試験的に草刈りをしたり、今後はオオバクサを抜くイベントを企画して、より多くの市民と力を合わせて川の生態系の維持・向上に努めていきたい。

6月には、市教育委員会の協力を得て、プールにいるヤゴ救出作戦を授業の一環として児童と一緒に大好評だった。今後はこの活動を学校での水辺ビオトープづくりへとつなげていきたい。



プランを作った一番の成果は、多くの仲間と知り合えたこと。そしてそれらを実現していくための場と機会が増えたこと。これからは、それに応えていく市民の力が問われてくると思う。一歩ずつ、楽しいイベントを通じてこれらのプランを実現していきたい。

エコシティ志木代表 毛利 将範

新河岸川流域情報

活動報告

新河岸川流域まつり

「新河岸川流域まつり」が、今年は総合治水推進期間の5月24日（日）清瀬市金山緑地公園敷と調整池周辺広場に於て「川を知って、川と友達になろう」のテーマで小雨の中、実施されました。

展示ブースコーナーには、新河岸川流域の上下流のヘッドロや洪水実験コーナー、水質調査、魚類調査のコーナー等川によれる様々な体験ゾーンとなりました。

広場では、舞台が設けられ地元の子供会の太鼓演奏が演じていました。小さな子供達は、郷土芸能より「ギンガマンショー」がお気に入りでした。

午後には、源流と淵の森のウォーキングの参加者も加わり、みんなで、来年は、晴れる事を願いました。

・川あそび・川まつり・夏まつり・

7月19日（日）東久留米の落合川で、第5回目になる「わくわく川あそび」を、皮切りに翌週7月26日（日）朝霞市の黒目川で今年で2回目の「川まつり」、続いて8月1日（土）2日（日）二日間に渡る第3回「北山わんぱく夏まつり」が、3週連続で開催されました。

落合川では、子供達は午前中の河川清掃の後、早速に湧き水の川に入り一日中、カヌー・ゴムボート遊びや、手漕ぎで魚取りと、竹の一本橋渡り等を、楽しんでいました。

黒目川は、川幅が広く、浅瀬、平瀬、と小さな淵もあり、川に変化が多く、子供だけでなく大人も、カヌーに初挑戦して、川の流れに挑んでいました。

北川は、前日、土曜の夜は小学校の校庭で野外映画会が、模様され、当日の「夏まつり」へとつなげていきました。

お知らせ 黒目川を

市民の水辺に

黒目川では下流からの改修工事が進んでおり、すでに合流点から2.6km地点までの工事が終わっています。今年度からの部分は、蛇行ともなっていて瀬と淵があり、湧水の流れがあったりして、冬には野鳥がいっぱい集まる場所ですが、ここも堤防を高くして川幅のまんなかを掘り下げることになっています。

朝霞では、この工事について県と市と市民とで話し合う場を作りたいという願いから、「水辺の楽校」をキーワードに運動を始めたところです。

これからの予定
シンポジウムⅠ 9月27日（日）13:00～
朝霞市立第三中学校図書室
シンポジウムⅡ 11月8日（日）

おもしろ出店、食べ物屋台等、北山公園は、ライブが、始まる。と広場は、カップのお祭り状態になりました。三つの川で共通して、今年も魚類調査を実施しました。北川は、ヨシノボリ・ギンブナ・ムツゴ・スズエビ・等落合川は、ホトケドジョウ・アブラハヤ・オイカワ・等黒目川は、ウグイス・マルタ・ボラ・マハゼ・シマドジョウ等でした。北川（源流域）・落合川（湧水流域）・黒目川（下流域）のそれぞれの地域の川の違いが魚の種類でも判りました。



市民参加で再生に 「金山緑地公園」

清瀬市の「金山緑地公園」は、柳瀬川中流左岸にある自然豊かな公園です。この付近約600mの未改修護岸の工事に市民の声をということで清瀬市が「金山緑地公園及びその周辺の川づくり懇話会」をつりました。昨年5月より8回の懇話会を開き、改修方法について討議してきました。懇話会には、市の建設部から2名、東京都から2名参加して行政の立場からの発言と共に市民の声に耳を傾けてくれています。今年6月、東京都から改修計画案が示されました。この改修案は昨年8月に都に提出した「柳瀬川川づくり市民懇話会」の要望書の趣旨と市の懇話会において出された要望事項が多く活かされたものになっております。50mm/hの降雨に耐えられる強度を保持する護岸づくりを条件に、公園の樹木を1本でも多く残すことと、右岸

にあるカワセミやコジュケイの営巣地となっている斜面林の自然を守ることを条件とした改修案が提示されたのです。これによって金山緑地公園及びその周辺自然環境が保全されることになりました。今まで河畔にありながら川との関わりがイマイチ少なかった金山緑地公園が川と一体となった自然豊かな公園に再生できるものと期待しております。新しい河川法によって河川改修や河川管理について流域市民の要望を活かした環境重視の河川行政が柳瀬川にも具現されようとしていることは川を愛する私達にとっては本当に嬉しいことです。

この河川改修は平成13年度に完了します。新河岸川流域川づくり委員の皆さん！

是非一度金山緑地公園にご来遊下さい。

「柳瀬川川づくり市民懇話会」清瀬世話人

清瀬市「金山緑地公園及びその周辺の川づくり懇話会」会長

神沢 志朗

【ススキとオギ】

駒埼玉県生態系保護協会
堂本泰章

遠い昔、武蔵野では、虫の音が響く頃になると、ススキやチガヤが、銀の穂を一面にたなびかせる風景がみられました。人々はこの草原に分け入っては、茅葺き屋根の材料や牛馬の餌を得ていたといわれています。身近なススキ野原から穂を折り取り、お団子と共に供えて大きな月を持つお月見は、今日まで受け継がれてきた文化のひとつです。しかしススキだと思っただけの草が、実はオギという別の植物だった—などということがあるので。

ススキとオギはどちらもイネ科のよく似た植物ですが、違う点も一つあります。ススキは乾燥した場所に、一つの株から何本もの茎を出し、大きな株になって生えます。一方オギは、河原の水城近くの砂が堆積したところに一本一本単独で生えます。また穂に生える毛はオギの方が長いので、全体的にススキより白っぽく見えます。

こうした特徴を頭に入れて歩いてみると、ススキ野原は意外と少ないことに気づきます。これは、ススキ野原が手入れをされなくなって林に変わったり、宅地にされたことなどが原因です。さらに今まで私たちがススキ野原だと思っていた河原のオギの野原も、帰化植物のオオトクサにとってかわられたり、埋め立てられたりしています。ススキやオギをはじめとする多様な植物は、手入れされた草地や自然のままの河原など、さまざまな環境があってこそ、育まれていきます。



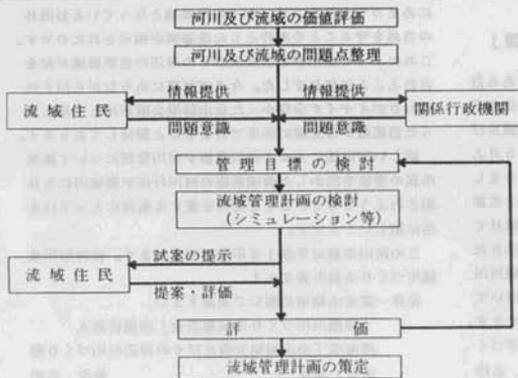
もうすぐ
中秋の名月。
ススキを
お供えし、
昔をしのび
つつ月を愛
でてみてはい
かがでしょうか。

流域管理計画について

現在、建設省荒川下流工事事務所では新河岸川流域における流域管理の調査・検討を行っています。

平成8年6月に、河川審議会答申「21世紀の社会を展望した今後の河川整備の基本的方向について」が出され、総合的な水循環や流域を基本単位とした行政の展開を計る上で流域団体での管理をすることが必要となっています。

流域管理とは河川で生じる様々な問題を流域の中で総合的に対応することであり、健全な水循環の確保はそれ自体が目的といえますが、一方で水循環とは河川にとどまらず流域で生じる様々な問題を把握する手段であり、また問題を捉える視野ともいえます。



建設省関東地方建設局 荒川下流工事事務所調査課

新河岸川流域イベントスケジュール

- 8月15日(土)
夜の観覧会
野山北公園プール前集合 18:30
-21:00
主催：自然に学ぶ会
問合せ：藤沢 042-565-4274
- 8月23日(日)
不老川で魚つり
西武新宿線南大塚駅集合 9:30
鎌倉「瑞穂の里」対岸集合 10:00
-13:00
参加費：100円(保険料)
持ち物：弁当、虫めがね、着がえ等
主催：不老川流域川づくり市民の会
問合せ：丸橋 042-959-3831
- 8月29日(土)
一斉水質調査データ検討会
新所沢公民館 13:30-
主催：新河岸川水系連絡会
問合せ：藤井 048-474-2785
- 8月29日(土)
東京都水環境保全計画内容説明会
東京都環境学習センター 14:00~
申し込み 環境保全局水質保全部
8月27日まで
TEL 03-5388-3505
FAX 03-5388-1378
- 9月5日(土)
北川復元プラン検討会(まとめ)
東村山市中央公民館集合 13:30
-16:00
主催：北川かっぱの会
問合せ：宮本 042-567-3346
内容：北川のあるべき姿、これからの姿を話し合い、プランづくりを行います。
- 9月6日(日)
第7回 清流復元シンポジウム
東久留米市郷土資料館 11:00
-12:00
東久留米市成美教育文化会館 13:30
-16:30
主催：東久留米湧水条例研究会
東久留米ほとけどじょうを守る会
東久留米ホテルを呼びもどす会
問合せ：豊福 0424-75-7643
- 9月8日(火)
川の道調査 48空欄川ウオーチング
武蔵村山市中砂橋集合 9:30
主催：御湖川流域川づくり市民懇談会
武蔵村山地区
問合せ：藤沢 042-565-4274
- 9月20日(日)
第1回 黒目川ウオーチング
朝霞駅・北朝霞駅ロッチェリア前集合 9:30
弁当持参、歩きやすい服装で
主催：黒目川流域川づくり懇談会
問合せ：松本 0424-72-1896
- 9月27日(日)
(録)第1回 水辺の学校シンポジウム
IN朝霞
朝霞市立第三中学校図書室 13:00-
主催：同シンポジウム実行委員会
問合せ：藤井 048-474-2785

情報をお寄せください!

見て、聞いて、歩いて感じたことや他の人にも伝えたいこと、これからの予定や参加者募集のお知らせ、チラシなどを郵便またはFAXでお送りください。

〒351 朝霞市朝志ヶ丘3-4-201

新河岸川流域川づくり連絡会 朝霞事務局

TEL/FAX 048-474-3504